

女性が輝く企業へ **GO**

ケース3「農林水産事業」女性就農支援

日本政策金融公庫は国民生活、農林水産、中小企業の3事業連携による総合力で地元企業の女性活躍推進への取り組みを支援している。第3弾は農林水産事業の事例を紹介する。

◇ 長井農園 ◇

省力化機械購入で資金活用

兵庫県宝塚市出身の長井智佐子氏は、Iターンにより和気郡和気町で4年前に新規就農。長井農園としてナス、白ネギ、スナックエンドウ、黄ニラなどを栽培し、事業規模を順調に拡大している。

もともと土いじりが好きで、趣味でトマトなどを栽培していたことから、これを仕事にしようと就農を決意した。就農地は誘致に熱心だった岡山県に決め、県の新規就農研修事業に参加。さらに、農業体験研修で受け入れてくれた同町を選んだ。JAや地元農家らの協力で8000㎡の土地を借りスタート。その後、生産量は順調に増加し、主力のナス、白ネギはそれぞれ2016年夏～秋15t、15年秋～冬6tを収穫し、地元のJAや産直スーパーに出荷している。

女性の農作業は体力的な負担も大きく、機械による省力化、効率化が課題だ。15年は除草、土寄せなど多機能な耕

運機、袋詰め用の重量選別機を計50万円、16年はトラクターを240万円で購入した。資金は日本公庫の「青年等就農資金」を活用。就農後5年以内の農業者が対象で、用途は運転資金、設備資金に幅広く利用でき、融資期間は12年以内（うち据置5年以内）と長い。15年県からエコファーマーの認定を受け、たい肥などを活用し化学肥料・農薬の低減にも取り組む。「岡山県産としてブランド価値を高め早く軌道に乗せたい」としている。

日本公庫は、14年4月に認定新規就農者向けの「青年等就農資金」を創設。県内での融資実績は14年度6件、融資額3100万円、15年度12件6100万円、認定農業者向けの「スーパーL資金」（農業経営基盤強化資金）は14年度55件、13億9700万円、15年度68件、22億5000万円とそれぞれ年々増加。新規就農から事業拡大まで一貫した担い手育成支援を行っている。



長井智佐子氏



日本政策金融公庫

岡山支店

国民生活事業 ☎086-225-0011
農林水産事業 ☎086-232-3611
中小企業事業 ☎086-222-7666